

パリサイ人は神の前に出てきて祈ってはいますが祈る先は神様ではなく、人々に立派であると思わせるために祈っていました。今あなたはどこに祈っているでしょうか。いつも祈り続けるべきであり失望しないために、イエス様はこのたとえを話されました。ここで出てくるやもめの女性は度々きては裁判官に「助けてください」と願い続けていました。この裁判官は人を人とも思わない、神をも恐れぬような裁判官でしたが、彼女の願いを聞き裁判を行いました。彼女は願い続ければかなうと信じていたのです。あなたは願ったことが叶うと信じていますか。しかしこれはあなたが神様に願っていることが大前提です。もしあなたの祈りがパリサイ人の祈りであったらあなたは誰に祈っていたのでしょうか。私達はいざという時ほとんど真剣に祈っていない、一番の願いは祈っていないことが多いのです。一心神に願う（保険の祈り）でも根本的なことは自分で解決していませんか？そして今あなたは人生に感動していますか。私達は神に感動しないと生きられない、つまり日々の生活の中で「神様にこうしてほしい」と祈って聞かれることが大事なのです。そして神様は、私たちに感動を与えたいと同時にそれには「時」があると言っています。やもめの女性の例を通して、いつも祈り続け、失望しないということ伝えると同時に、最後まで信じて祈り続けるように言っているのです。神様は私たちの祈りはすぐに聞いてくれますが、解決は「その時」という祈りもあるのです。その間悪魔は私たちに「本当にそうなるのか」と語りかけてきます。だから私達は毎日祈って「その時こうなる」と聞いていく必要があるのです。たくさん祈っていれば、その時の祈りの答えが来る前に、今日の答えが返ってきます。そうすることが「今日も聞かれた。だから明日も聞かれる」とあなたの祈りの保障になるのです。私達はイエス・キリストの証人です。そこに感動がなくては伝わりません。そのために日々の祈りを適当にしていたのではダメなのです。祈ったらその結果やその時の現状はどうであれ信じてください。祈りが聞かれる「その時」は私たちにはわかりません。しかし、神様は不正な裁判官であっても願いを聞くのだから、私達を愛してやまない神様が聞かないはずがないと私たちに伝えているのです。「しかし、人の子が来たとき、はたして地上に信仰が見られるでしょうか。」（ルカ18：8）感動がないと信仰が全うできません。神様がなんとなく願いは叶えてくれていることを私達はわかっています。「だから放っておいても大丈夫」こうなると祈りもしなくなってしまう。だからゲッセマネで神様と祈りのときをもつことが大事なのです。悪魔は何とかしてあなたから蒔いた種を取りたいのです。祈ったときあなたがどれだけ信じ、耳元で語られる悪い言葉を捨て、実行するかです。人は究極の状況になれば祈ります。悪魔は祈らなくてもできそうなあたり、落ち込まないギリギリのところまで誘惑してきます。今あなたの前に信仰を取り去る悪い問題が起きたときに真剣に祈って欲しいのです。祈りの恵みを得るために①**祈りを一番に**。色々する前にまずは神様に祈ってください。そして悩まず神様にどうするか聞いてください。そして聞くために②**高ぶりを捨てる**。隣の人を見て「まだまし」「私なら」は捨ててください。③**考えを捨てる**。「神様こうですよ」ではいけません。これは祈っているふりです。自分の考えを中心に祈ってしまいます。すべては神の栄光が現れる人生ではなくてはいけないあなたの人生が、ただシナリオどおりにやりたいというのでは、あなたの光が消えてしまいます。私達は内側を輝かせなければいけません。あなたは感動していますか。感動のない横ばいの信仰は意味がありません。それでは成長はありません。感動する祈りは心からの祈りです。「取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようとせず、自分の胸をたたいて言った。『神さま。こんな罪人の私をあわれんでください。』」（ルカ18：13）神様はこの取税人の祈りを聞き、赦されたとあります。気取った祈りではない、上手な奉仕ではない、大切なのはあなたが輝いているかどうかです。あなたは人と接するとき、話をする時どんな顔をしていますか。それがあなたの本心です。心の内側にあるものが外へ出るので。だから自分にとって管理するものがあるときに輝いていても、弱いものに出る態度がそうでなければ本当に輝いているとはいえません。本当に今、あなたの人生が輝いているかどうか考えてみてください。輝くためには、高ぶりを捨て、考えを捨て、イエス様がゲッセマネで祈ったように「私はこうしてほしい。でもあなたに任せます。その都度大事な行動を取ります」と祈ってください。イエス様は自分の計画を知っていて、それに従い十字架にかかったからこそ、全ての人が救われ、ご自分も人として死に神の子として天にかえって行きました。今本当にあなたは、神様の方法を信じて祈っていますか。今の現実にも目を向け「こうなってほしい、ああなってほしい」と祈っていませんか。感動を得るためには、神様の前であなたの方法ではなく、神の方法で祈ってください。「しかし主は人のたましいの値うちをはかられる。」（箴16：2）放っておいても変わりません。真剣に祈ってください。あなたは、イエス・キリストの後のヒストリーメーカーです。うまくいかないとふてくされる、打たれたら打ち返すでは意味がありません。「神よ、私を平和を奏でる楽器としてください・・・」これは有名なフランスの祈りですが、この一人の祈りが、その当時、イスラムの戦争を止めました。感動しているかどうか、本当の祈りをしているかどうかのパロメーターです。祈っても聞かれないのは自分の欲のために祈るからです。今日から真実の切なる祈りをし、たくさん感動を得て、輝いていきましょう！